



「今日はちょっと趣を変えて、マーケットの動きに付かず離れずの生活を余儀なくされている、ファンドマネジャーの平均像を描写することにしよう。複数のファンドマネジャーから聞き取った実話を元に紹介する。」

ファンドマネジャーの多くは早起きだ。ほとんどの人は午前6時30分には起床しているという。ほぼ全員が、午前6時から始まるCNNニュースか「ニュースモーニングサテライト(テレビ東京)」で、前日の欧米のマーケット動向と関係者のコメントをチェックすることから1日をスタートさせるからだ。

ここで注目するのは、NY市場での株価、為替相場、長期金利とFRB(米連邦準備制度理事会)の政策動向。

特に最近では、金融危機の影響をより正確に観察するために、「VIX(恐怖指数)」「バルチック海運指数」「BKX(フィラデルフィアKBW銀行株指数)などもチェックする。また、本欄でも紹介した「ケースシラー住宅価

今

回はちょっと趣を変えて、マーケットの動きに付かず

格指数(月末最終週発表)への注目度も高い。

長期金利については、FRBの先行きの金利政策を先読みする性格を持つため、TB3カ月レートやロンドン市場でのLIBORも必ずチェックする。環境が急変している場合などは、海外のスタッフを呼び出して、より詳しい情報を仕入れることも度々ある。

なお、こうした海外事情を朝一番で知るために、多くのファンドマネジャーが定期的にアクセスしているのがCNN.comやWall Street Journalだ。データだけでなく政治動向、FRBやホワイトハウス、財界などの要人のコメントなどにもひとわり目を通す。

通勤中は、自宅でチェックした新聞記事を読むという人が多い。コーヒード店で新聞に目を通すことを習慣にしている人もいる。

格指数(月末最終週発表)への注目度も高い。

長期金利については、FRBの先行きの金利政策を先読みする性格を持つため、TB3カ月レートやロンドン市場でのLIBORも必ずチェックする。環境が急変している場合などは、海外のスタッフを呼び出して、より詳しい情報を仕入れることも度々ある。

なお、こうした海外事情を朝一番で知るために、多くのファンドマネジャーが定期的にアクセスしているのがCNN.comやWall Street Journalだ。データだけでなく政治動向、FRBやホワイトハウス、財界などの要人のコメントなどにもひとわり目を通す。

通勤中は、自宅でチェックした新聞記事を読むという人が多い。コーヒード店で新聞に目を通すことを習慣にしている人もいる。

席を離れて企業訪問や情報のすり合わせを重視

会社に着くとまず情報端末のスイッチを入れる。最近ではブルームバーグやロイター、日経クイックを離れて企業訪問や情報のすり合わせを重視

会社に着くとまず情報端末のスイッチを入れる。最近ではブルームバーグやロイター、日経クイックを離れて企業訪問や情報のすり合わせを重視

有価証券の売買の執行はトレーダーに依頼

相前後するが、ファンドマネジャーにはそれぞれに企業訪問のスタイルがある。例えば、経営戦略について首脳陣へのインタビューを中心に行うというタイプ、メーカーなり現業部門を持つている企業については必ずその現場を訪れるというタイプ、気になる企業は重点的に繰返し訪問するというタイプ、おおむね決まった企業をルートセールスよろしく訪問し続けるタイプ、と実にさまざまだ。

実際にファンド組入れ有価証券の売買を執行するときには、自らが直接注文するのではなく、原則として社内のトレーダーに売買注文を依頼する。「〇〇電機を2万5000株・12800円で、××建設を1万株・3800円で今日中

角川総一の



マーケット・リテラシー

金融市場を読む、解く、話す力を養う

File 040

起床時間や就寝時間は一般のサラリーマンと変わらない?

マーケットに付かず離れずの  
ファンドマネジャーの1日を追う

に買付け」「クーポンが2%台の期間8・9年債を額面24億円購入。利回りは単利で1・05%である必要あり」というようにだ。

要請を受けたトレーダーは、トレーディング能力をフルに発揮。株式で言うと、市場外取引も含め複数の証券会社に対して注文を出しておくし、債券やCDは「もっとも条件が良いところから購入します」と、入札取引に近いテクニックが使われるのが普通だ。

終業後の過ごし方も  
千差万別

午後3時に後場が終了。最近では市場外取引がままあるし、債券や為替取引といったマーケットでは、引き続き活発な取引が続けられている。ただし、3時以降は打合せのほか、一般経済誌などに目走らせることが多いという。

雑誌で注目度が高いのは、やはりビジネス誌の御三家と呼ばれる「日経ビジネス」「週刊ダイヤモンド」「週刊東洋経済」の3誌。またマネー関連、エレクトロニクス、コンピュータ、ベンチャー、

マイクロデバイスなどの専門誌に目を通すマネジャーも多い。

6時以降の時間の過ごし方も一般のサラリーマンと同じく(？)千差万別。個別銘柄のチャート丁寧な点検する人、当日のわが国のマーケット動向についての解釈をWEB上などで点検、アナリストなどに議論をふっかける人、十分に目を通せなかった雑誌、他社のアナリストやストラテジストの報告を改めてチェックする人。

一方、人脈を広げるために外部との交流を行う人も多い。午後から企業訪問した後、そのまま訪問先の企業の人と食事に行くなんてことが日常茶飯だという人も。

帰宅後に見るテレビで人気が高いのは「ワールドビジネスサテライト(テレビ東京)」「報道ステーション(テレビ朝日)」。

起床時間は6時~7時であるのに対して、就寝時間は7時でばらばら。これも一般のサラリーマンと同じか。ただし、NY市場で為替、株価が急変した場合には真夜中に海外からの電話でたつき起こされることもままあるという。